

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

### 奉仕を通じて平和を

第 2478回 例会  
 平成 25年 2月 8日 (金)  
 天候 晴れ  
 合唱 我らの生業  
 四つのテスト

会 長 山本 明峰  
 幹 事 石倉 幸久

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
 例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原  
 TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401  
 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

#### 会長挨拶

「夢見の技法」  
 本日は、I・M以来となりますが、鈴木ガバナー補佐にお越しいただいております。ただいまは、各人におみやげをいただきました。遠慮なく頂戴いたします。ありがとうございます。  
 さて、このところしきりと後世が気にかかります。様々な宗教は、地獄だ、天国だと物語って、世人を惑わすのですが、その中で奇妙に思うのは、これは良い方の後生の在り方でしょうか、肉体は滅するけれども、精神だけは永遠に残るというものです。しかし身体があるからこそ、様々な感覚器官が感受した情報によって喜びを得る事も出来るのでは無いのか知らん。どうも最近眠りが浅くて夢ばかり見るのですが、しばしば「これは夢の中だ」と気づいてしまうんですね。明晰夢というやつです。そのまま身体をほっといて、夢の展開を楽しめれば良いのですが、そうはいかない。どうしても起き上がりたくなってしまいます。当然レム睡眠時の筋肉が弛緩した、随意運動が出来ない状態ですから、いわゆる「金縛り」になります。これが実に苦しいのです。意識の牢獄とも言えるし、外界との絶対的な孤絶状態でもある。脳の指令がすんなり神経を通して筋肉に届かないというのは全くもって苛立たしいといえますか、それを乗り越えて空恐ろしい気がいたします。ここで引き合いに出すのも気が引けるのですが、筋肉が段々と萎縮して行くような病気、また感覚神経は働いているのに、運動神経が失われて行く病気に罹られた方は、本当にお気の毒としか言いようがありません。  
 古来、世界各地に「夢見の技法」の伝承が存在します。何とかマスターしたいものですね。ハリウッド映画のような華々しい夢を自分の好きなように観たいものだとつくづく思うのです。

#### 幹事報告

- ガバナー
1. 会長エレクト研修セミナー(PETS)のご案内  
 日時：平成25年3月13日(水)  
 登録9:30~10:00 PETS10:00~18:00  
 懇親会18:00~19:30  
 場所：グランドホテル湘南
  2. 2013~2014年度地区役員・委員会委員(正副委員長含む)ご就任委嘱の件  
 委員会名：職業奉仕委員会 委員 山本明峰
  3. 2013年地区協議会開催のご案内  
 日時：平成25年4月21日(日)  
 登録12:00~13:00 協議会13:00 点鐘  
 場所：麻布大学 登録料：1名8,000円  
 登録締切：3月19日
- 連絡事項
1. 湯河原町経済3団体賀詞交歓会のお礼状が届きました。

#### スマイルBOX

- 山本明峰君 タウンニュースにIMの記事が掲載されました。
- 伊藤伸之君 IMについて、鈴木補佐にはいろいろ御指導いただきありがとうございました。
- 石田浩二君 万葉荘の運営事業者に指名されました。3年間の契約になりますが皆様のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。
- 西山 敦 君 節分祭無事終了しました。
- 渡辺久恭君・深澤昌光君 五所神社節分祭で豆まきをさせていただきました。
- 高知尾朝行君 2月5日広河原稲荷の例祭・直会無事終了しました。
- 杉山茂久君 広河原稲荷の初午祭が盛大のうちに終わりました。
- 杉山茂久君 湯河原信和会の研修会が無事に終わりました。
- 神谷一博君 赤レンガ倉庫のイベントにて湯河原温泉足湯皆に喜んでもらいました

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 1名	会員 24名
	欠席 5(免除者1名)		出席率 82.61%
	前回の修正出席率 100.0%		前々回の修正出席率 100.0%

## 本日のお客様

ガバナー補佐 鈴木悌介様

## IMのお礼

ガバナー補佐 小田原北 RC 鈴木悌介様  
1月23日(水)第2780地区第9グループの  
IM勉強会のお礼のためお伺いしました。  
山本会長、伊藤実行委員長、会員の皆様、  
本当にご苦労さまでした。

## 卓話

人車鉄道について 深沢昌光君

### 1 はじめに

原始的な乗り物が、私たち身近なところで運行していたこと、またNHKの歴史秘話ヒストリアに出演し、鉄道には庶民の夢やロマンが託されているというわけで、明治の風物詩「豆相人車鉄道」についてお話しします。

### 2 歴史背景

明治5年9月、新橋—横浜間を10両編成の客車を引いた蒸気機関車が運行され、明治20年7月には横浜から国府津まで延長され開通したが、国府津から静岡の路線計画は箱根山を越える敷設は技術的に難しく、「御殿場」を通るコースに決まり、小田原、熱海は取り残されることになった。明治22年、箱根へ温泉客を運ぶため、国府津から小田原を経て湯本まで馬車鉄道が敷設され、箱根の湯治客は増えたが、熱海は敷設の目途がたらず「極めて不便な温泉別荘地」の名に甘んじなければならなかった。国府津で東海道線を降りると小田原まで馬車、その先熱海までは人力車で、デコボコ道を4時間以上。東京から船もあったが、4日に1度の便しかなく、熱海まで8時間30分かかった。そこで、熱海の旅館主達は「極めて不便な温泉別荘地」「陸の孤島熱海」のイメージを変えるため1日も早く鉄道を開通させたいと熱望し、当時鉄道事業に関係していた甲州商人雨宮敬次郎氏に鉄道架設を依頼したが、資金が集まらず工事費、労賃が比較的安く上がる人車鉄道を選択したのである。明治28年7月熱海—湯河原間が開通、翌年3月に熱海—小田原間(25,6キロ)全線開通し、資本金12万円の(株)豆相人車鉄道が発足した。豆相人車鉄道は小田原(早川口)を始発駅とし、その間に6駅を有し、熱海まで4時間10分を要して、1日6往復で運行された。明治41年輕便鉄道が営業開始されるまで12年間、人車は運行していたのである。

### 3 運行状況

人車は、長さ1,62m、幅1,5mで上等4人、中等5人、下等6人で等級で区別され、各々客室内装が異なり、2~3人の車夫が押していた。運賃は、明治31年時点で下等で50銭、中等75銭、上等1円であった。湯河原を愛した国木田独歩が「湯河原より」でこの人車鉄道のことを書いている。また外国人で乗車したブルーノタウト(ドイツの建築家)が沿線の海岸風景を日本のリベエラと絶賛した。大正天皇も皇太子時代熱海へ来た時に利用された。人車鉄道のレールは、村を通る狭い道路の端に敷かれた。レール幅は610mmでJRの鉄道の半分しかない。乗客を乗せた客車は車夫に押されて、一列になって走った。途中の村々を通り抜けるとき、先頭の車夫は警笛として豆腐屋が吹くようなラップを高らかに鳴らした。小田原を出発した人車の列は海を見下ろす山道をゴロゴロとのんびり走ったが、登ったり下ったりの坂道が沢山あり、登り坂になると乗客は降りて景色を眺めながら歩いたり、時には車夫と一緒に客車を押ししたりすることもあった。下りになると、人車は途端に元気になり、スピードが出過ぎると車夫達は急いでステップに飛び乗り、屋根から下がった綱につかまりながら、力いっぱいブレーキのレバーを引く、脱線や転覆等の事故もよくあった。そんな時、乗客は皆で力を合わせて持ち上げ、レールに戻した。江の浦駅付近の景色が一番良く、相翁松碑を過ぎた所辺りが沿線中の最高地点(131m)である。

### 4 おわりに

人車鉄道のレールが、湯河原に残っていることまた人車・軽便鉄道に使用された枕木が存在していること。これらをきちんと保管し、閲覧できるようにすることが大事なことを考えます。併せて全国人車サミットが湯河原で開催されることを望みますので、ご協力をお願いします。

